



TOP MESSAGE

GM通信 初めてのプログラミング発表会が無事に終わりました

世田谷校・有明校合同で開催した初めてのプログラミング発表会が終わりました。多くの保護者にも見学していただきました。発表会の直前、子供たちには自分の作品が一番いいものだと思って自信を持って発表するように言い聞かせました。当日は皆相当緊張していましたが、想像していたより随分上手にできたのではないかと思います。自信がなければ相手に共感を持ってもらえるようなプレゼンテーションはできませんし、説得力のある説明もできません。自信をつけるためには準備をどれだけして来たか、そして何よりも費やした時間と手間に自分自身が十分納得しているかが重要です。いずれにせよ準備したこと以上のことはできないのです。今回の発表会のような機会を通じて子供たちには準備する過程の大切さと費やす時間や手間の意味を理解して欲しいと思います。これからなるべく多くの場数を踏む機会を与えたいです。今回の発表会の後で「もっときちんと準備すれば良かったな。」という感想を言う児童がいました。すごくいいことですね。その児童が自らの準備不足を後悔する発言をしたことはポジティブなことだと感じます。少なくとも私はそう思います。次のプレゼンテーションが楽しみになりました。

今回のGM通信では「自信を持つこと」と二律背反とも言える「謙虚であること」について書きたいと思います。

先日久しぶりに私がJR東日本に勤めていた時の後輩と会食をしました。その時彼に聞いた話です。彼の息子さんは中学校時代に東京で有数の野球の強豪クラブに所属していたそうです。そのチームが東京代表決定戦に勝利した試合後のことです。負けたチームの選手たちが弁当を食べながら静かに次の試合を観戦していたそうです。一方勝利を収めたチームの選手たちは喜びにあふれワイワイ騒ぎながら弁当を食べていたそうです。まだ中学生のやることですから当然起こりうる事態です。その光景を見ていた勝利チームの監督が自チームの選手たちを集合させてこう言ったそうです。「相手チームを見なさい。彼らがどういう気持ちで弁当を食べ、次の試合を観ているのか想像できないか。彼らの姿を見て自分たちだけ騒ぐことができるのか。」と。しんと静まった自チームの選手たちに続けて「どんなに成功を収めても相手に対する敬意を忘れてはならない。次の機会では自分たちが敗者になるかもしれない。それを忘れてはならない。常に謙虚であれ。謙虚であるとは周りの状況が見えていることと同義だ。」と。

目から鱗が落ちました。謙虚であるとは自分が置かれている状況を理解できていることと同義だという意味ですね。確かに敗者の気持ちを考えられること、自分たちが同様の状況に置かれた時の気持ちを想像すること、両方とも周りの状況を把握していなければ気が付かないですね。謙虚であるためにも自分を客観視することが必要だということです。いい話を聞くことができました。後輩と食事をするのも悪くないですね。

私は「無知の知」というソクラテスの言葉を座右の銘として日々の仕事と向き合っています。もう30年以上もこの言葉と一緒に人生を過ごしています。「無知の知」とは「自分が何も知らないということを知っている。」という意味です。長らく同じような仕事をしていると自分が何でも知っているという気持ちになってしまいます。もちろん自信を持つことは大切なことですが過信は自らの成長を止めてしまいます。自分がまだ何も知らないということを知ることが、謙虚な姿勢で知識を求め、より深く物事を理解しようとする態度につながります。固定観念や思い込みから解放され、新たな知識や真理を追究しようとする意欲や好奇心が生まれます。この意欲や好奇心を持つことが仕事だけではなく、生きていく上で重要な意味を持つのです。このようなマインドを持続するためには他者との対話をする必要があります。自分と考えの違う他者と積極的に話をすることで新たな発見や気づきを得られるのです。私は今年で61歳になりましたが、この「無知の知」のおかげで新しいことにチャレンジする気持ちを持続できていると感じます。

「自信をもつこと」と「謙虚であること」をバランスよく両立させていくこと。難しいことですがグローバルスクールに通う子供たちにこの姿勢をどうしても身につけて欲しいです。どうすれば子供たちに伝わるか、大切なことだと実感してもらえるか、これを考えながら日々子供たちと接しています。

今回のプログラミング発表会には残念ながら出席しなかった有明校の児童の話です。その児童は普段から他者とのコミュニケーションをあまり取りたがりません。決してその能力が低いわけではないと私は思っていますが。その子はプログラミングの授業の中で本当に素晴らしい作品を作り出すのです。創造性に富み、しかも細部まで気を配った作品を生み出す力があるのです。プログラミングのテクニックだけではなく、ストーリーテラーとしての素養があることは間違いありません。以前ここで取り上げた児童は、すでにあるものをモチーフにして自分の解釈を加えていくことが得意ですが、この児童はゼロからストーリーを生み出し映像化することが得意なのです。この二人が隣に座って休み時間にパソコンに向かってる姿を目にします。ふたりの会話の中からびっくりするような世界が生まれることを楽しみにしています。

今回はこのあたりで終わりにします。

SCHEDULE

【世田谷校】8月の主な予定

- 8月18日(月) 始業式
- 8月19日(火) 金融
- 8月25日(月) 農業実習

【有明校】8月の主な予定

- 8月18日(月) 始業式・金融
- 8月26日(火) 農業実習



随時、体験会を実施しております。
お気軽にお問い合わせください。
TEL:03-5942-1830